

第Ⅱ部 未来型学力を育てる探究学習

③ 「もっと知りたい、学びたい」

— 探究学習で学びの楽しさを取りもどそう

1. 課題の前で立ちすくんでいませんか？

- (1) 人生の問題は答えが一つでないものばかり。場合によっては「絶対に正しいという答えはない」ときもあります。そんなとき、日本の子どもは立ちすくんでしまいがち。唯一の正解を求める習慣が身についてしまっていて、答えが一つでないことに不安といらだちを感じてしまう傾向が強いことが国際学力調査などではっきりしてきました。ゴールが決まっている問題には効率よく対処できても、いざ大学へ行って学問しようとする、「課題にどうとりくんだらよいのかわからない」「仲間とうまくコミュニケーションがとれない」「どう発表したらいいのかわからない」などと立ち往生してしまうのです。
- (2) 勉強の目的について、「まわりの人を幸せにするため」と答える子が少ないのも日本の特徴です。勉強をやりがいのあること、楽しいこと、と感じている生徒は多くはないようです。逆に、勉強を「自分がテストされるもの」とプレッシャーを感じている子はたくさんいます。失敗や間違いをおそれずにチャレンジすることがにがてなのはそのせいではないでしょうか。

2. 学びのトキメキを取りもどそう

- (1) ハッとする瞬間が大切。ワンダーランドは感動の森です。

本来、子どもにとってはまわりにあるものすべてが心ときめく興味関心の対象。何にでも喜々として疑問を発し、何でも知りたくて冒険心豊かに自然に挑んでゆきます。子どもたちにとって学ぶとは、知の探検隊の一員となること。とても胸躍る体験です。そして、それこそが人類の進歩を支えてきました。

金子みすゞ 「不思議」

私は不思議でたまらない、
黒い雲から降る雨が、
銀にひかっていることが。

私は不思議でたまらない、
青いくわの葉たべている、
かいこが白くなることが。

私は不思議でたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりではらりと開くのが。

私は不思議でたまらない、
誰にきいても笑ってて、
あたりまえだ、ということが。

(2) 疑問が止まらない、探究がやめられない

—「もっと…」を引き出す探究活動

「探究」学習とは、知の探検に繰り出すこと。「なぜ、そうなるんだろう?」「それってなんだろう?」。知りたい願望にかられた子どもたちは、自分の頭で知の探検地図をひねりだして、自ら学び、考え、判断し、問題解決というゴールをめざします。

不思議に思ったことの答えを自分で見つけたときには、大人に答えを簡単に教えられた時には得られない喜びと楽しさがあります。その時、子どもには、「もっと学びたい」「もっとやりたい」という思いが泉のように湧き出てくるのです。

3. 「探究」学習の目標

(1) 学びの快感と達成感を連続的に体験します

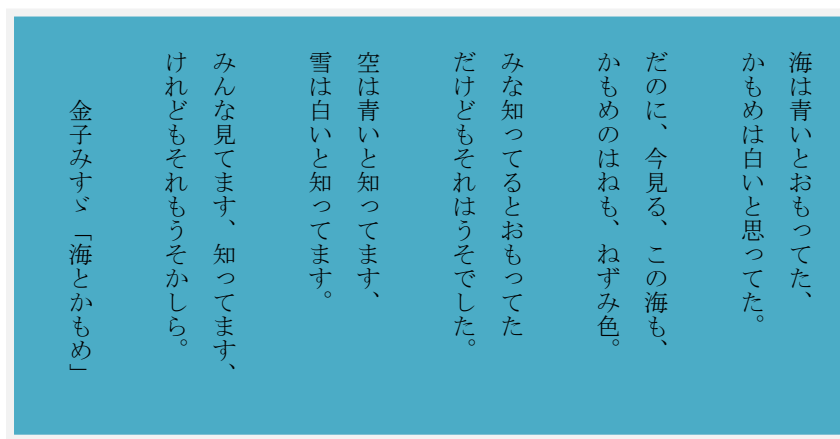
未知との出会い、課題の解決、研究発表など仲間との探究活動をつうじた「学びの快感と達成感」が自分への信頼と期待感を深め、人生（将来）を設計する意欲を高めます。

(2) 学習を自分でコントロールする力（＝基本的学習習慣）を育てます

人生のどんな時にも必要な勉強ができるように、生涯にわたる学習の基本となる自己学習の進め方と勉強の方法を習得します。あわせて大学での学問的取り組みの基礎を学び、大学での学びにスムーズに移行できる力も養います。

(3) 情報飛び交う不透明社会を生き抜く4つの力（探究力）を身につけます！

①情報を受け取り ②批判的に考え ③的確に判断し ④豊かに表現する



(4) 課題を見つけてその解決に取り組む意欲と能力を養います

自分で自由に考えて仮説を立てたり、調べて検証したり、課題を発見してその解決法を探す活動はとても楽しいので、勉強についても、自分についても、とっても

ポジティブな感情が湧いてきます。

(5) 卒業後の進路を明るく照らします

「もっと知りたい」という欲求は大学進学への決意を促し、「もっとやってみたい」
「現場でやってみたい」という欲求は専門学校や就職先を選定させます。探究学習
はキャリア教育そのものなのです。

4. 「探究」の学習活動

ホップ ステップ ジャンプ
～1年で大好きになって、2年で思いきりやって、3年で新たな発見！

(1) 学習活動の流れ

1年生：探究の楽しさを体験しながら学び方を学ぶ（「探究基礎」）

2年生：グループで探究する方法や面白さを学ぶ（「探究ⅠA」「探究ⅠB」）

※地域に出るフィールドワークやグループ討議&発表

3年生：個人研究で集大成（「探究Ⅱ」）

※探究成果を論文や作品にまとめ発表する

(2) 特徴

① 学び方を学ぶ

学びにはコツがあります。「勉強はにがて」と思っている人は実はコツを知らないだけということがよくあります。学びのコツを身に着けて大学そして生涯にわたる学習のベースを固めます。

② 地域で学ぶ

まちこそ学校。学校の教員だけが先生ではありません。教科書だけが教材ではありません。まちには不思議がいっぱいあります。生きた教材がいっぱいあります。ホンモノの“先生”がいっぱいいます。教室から飛び出し、ホンモノに出会って感動し、生きた教材と向き合ってトキメキます。

③ 仲間と学ぶ

仲間同士お互いに興味を向けることで思考と意欲がジャンプします。仲間や教師や地域の人々の考え方や価値観に出会い、新しい発想を手に入れるのです。

④ 自分たちで学ぶ

やらされる勉強から、自分からやる勉強へ。勉強計画を自分たちで「仕切る」のはとっても気持ちがいいのでやる気と責任が生まれます。

⑤ 自分と対話する

勉強って、今までの自分と対話することです。何を知っていて、何がわからなくて、何を知りたがっているのか。今思っていることが本当のことかどうか。今見えているものがすべてなのかどうか。ちがう見方や考え方で今の自分、過去の自分の考えを見直してみると新しい世界が見えてきて、自分の未来との対話が始まります。

⑥ 表現して“次”を見つける

一つの課題を解決したとき、なにかをわかったとき、驚き感動したとき、人は表現せずにはいられません。表現することによってこびは倍増します。同時に、“次の疑問”が湧いてきます。自分が外へ表現することによってハッと気づくことがあったり、反応が返ってきて自分に足りないことや思いもしなかった別の見方を教えてくれたりします。そのとき、次に踏み出す方向が見えてきます。新しい楽しみとともに。

5. 探究科目

(1) 基礎科目：『探究基礎』（1年・2単位）

～生徒一人一人の心をつかむ題材で「学び方を学ぶ」

① 探究の過程を学ぶ

ア) 課題の設定…問いに出あい、問いを深める

◇関心領域に気づく（複数） → 関心を一つに絞る（研究領域を決める）
→ 基本情報を探す → 基本情報を記録する（情報カードをつくる）
→ 基本情報をまとめる → メインテーマ（問い）に出会う

イ) 課題解決…資料を集め、情報を収集し、結論を導くための見通しを立てる

◇メインテーマを解決するための数個のサブテーマ（＝小課題）を設ける
→ 仮説（＝仮の結論）を設ける → 小課題を解決する情報や仮説を証明する情報を探す、資料を集める → 分析・検証して結論を導く（論証）

ウ) 整理して発表する

◇プレゼンテーション（3年生では論文や作品発表）

② 学びの道具（スキル）を身につける

ア) 文献収集

・図書館の活用法の習得（NDC＝日本十進分類法ほか）

研究テーマに沿った内容の図書を効率よく検索する技術の習得

イ) 情報収集

・コンピューター実習：インターネット・ワープロソフトなどの活用法の習得

ウ) 社会調査の手法

・観察

参与観察（入り込んで共に活動しながら観察すること）

景観観察（様子や状況を見て観察すること）

・インタビュー実習（聞き取り調査）

ポイントをついた発問を重ねることで、聴く力に磨きをかけながらテーマに深く迫っていく力を身につけます

・街かどアンケート実習

統計学に基づいた科学的なアンケート手法を学びます

エ) 実験のスキル

比較実験、仮説実験、観察眼の育成

オ) 対話のスキル

あいさつ、インタビュー、「しゃべり場」、ディベート、ブレインストーミングなどを通じて、問題解決に欠かせない対話力を育成します

③ 効果的な発表の手法を身につける

（例１）プレゼンテーション…パワーポイントの活用、ポスター、紙芝居

（例２）スピーチ

④ 情報を正しく受け取り、批判的に読み取る力を身につける

ア) 文献精読…前提となる言語能力を高める

イ) 聞き取り、対話、討論…他者の見解を知る。他の可能性を想定する。

（２）実践科目：『探究ⅠＡ・Ｂ』（２年・２単位×２）

探究基礎で養った力をもとに、コースごとに「探究」を体験します。とくに地域に出での探究活動を重視します。地域とつながり、実社会の中で調査し、対話し、発信することで生徒は急激に成長するからです。

① 特徴

ア) ゼミ形式など多彩な授業形態の採用

生徒個々の能力を相互に引き出し高め合う

イ) 地域が学習の主舞台

地域の人々の叡知に学ぶ。市民とコミュニケーション。

ウ) 定期的に市民にむけて発信（発表）

自己の探究成果の発表の場＝自己の成長確認実感の場

② 科目

国際探究ⅠＡ・Ｂ

「エリア別学習」と「日本の発信」を大きな柱に探究します。エリア別学習ではアジア、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ、アメリカの各エリアについて学習、生徒自身が課題を探し探究活動を行います。「日本の発信」では英語力を身につけると共に世界の中での日本とは何か、世界で求められる日本力などを探究し、3年次春のアメリカ短期留学に向けた探究学習を進めていきます。

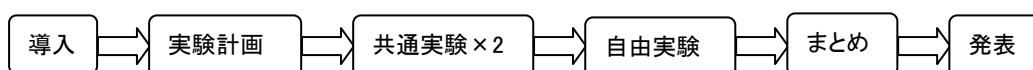
地域探究Ⅰ A・B

地域のあらゆるものが探究テーマになりえます。大きな柱は、「地域探究ゼミ」と「地域貢献プロジェクト」の2つ。「地域探究ゼミ」では地域の防災・産業・文化について調査発表を行い、「地域貢献プロジェクト」ではあらゆる視点から地域を元気にする方策を考え、提案します。どちらも弥富市や、生徒自身の地元地域などをステージに、フィールドワークや外部向け発表会など、外とのつながりの中で探究学習を進めていきます。

自然探究Ⅰ A・B

物理、化学、生物、地学の4分野について探究します。

全体の流れ



＊共通実験では、科学実験に加えて工場見学や野鳥観察などの豊富なフィールドワークを実施します。

＊自由実験では、共通実験で学んだことをもとに、生徒自身が課題を設定し、疑問を解決していきます。

スポーツ探究Ⅰ

「一流のアスリートはコートの中だけでは育たない。」という言葉がある通り、コート外においてもスポーツを科学的にとらえることが必要です。スポーツ探究Ⅰでは、スポーツを科学的にとらえるための手法とまとめ方、それを伝えるためのコミュニケーションスキルの習得を目指した探究学習を進めていきます。

(3) 統合科目：『探究Ⅱ』（3年・3単位）

探究実践の経験を活かして、いよいよ自分で探究したい課題に挑戦。2年間でつちかった探究力をフル活用した成果を論文にまとめるなど、発表の機会をもちます。

① 論文作成

- ・個人で探究テーマを設定し徹底追究
- ・探究活動の集大成として論文作成
- ・大学入試や大学での学びにも対応

② ポスターセッション（研究発表）

- ・探究活動の中間報告をポスターにまとめて発表し合います

③ 提言（発信）活動

- ・調査地域や関係諸機関と探究活動の成果を共有し、お互いの発展につながるよう
に提言発表を行います。
- ・国や地方公共団体、大学、企業、市民団体などが主催するコンテストなどに積極的に応募します。